

2022年3月期第1四半期決算説明会 音声・質疑応答

2021年7月30日

株式会社アイシン

音声データ リンク：

http://aisin.com.jp/jp/investors/settlement/uploads/fy2022_q1_presentation.mp3

Q1. 第1四半期実績は昨年4Q(3か月)と比べて増減幅が大きいようだが？

A1. 前期の一過性が300億ほど。内訳は統合による経営統合時の会計処理差など100億円や、稼働日・操業度差異によるもの230億ほど。今期の変動要素として売上減・材料変動が20億円ほど。体質面では構造改革の定着ができていると評価しており、重点領域への投資へ振り向けさせていただく。

SQ1. 今期の新たな一過性の費用はないということでよいか？

SA1. 新たな一過性の費用はない。

Q2. 上期見込みに半導体の影響はどの程度入っているか？下期が弱いようだがある程度リスクを見積もって通期据え置きとしたのか。

A2. まず上期見込みについては半導体不足等を一定程度見込んでいる。次に通期については半導体不足・コロナの不透明要素により計画見直しをする段階にないと判断している。4月公表の通期予想から今回公表の上期を差し引いて下期ということではない。実際には外的要因以外に下期悪くなる要素はなく、10月公表時点では得意先の稼働状況踏まえ、上方修正できるようにしたい。

Q3. 期初時点の計画と比較して、1Q・2Qの進捗は？

A3. 1Qの売上は概ね社内の計画どおり進捗したが、欧州系・中国系得意先向けなどは当初強い数字が来ていたが、実際には一部半導体不足による減産の影響があった。それでも四半期パワトレ台数240万台というのは高水準である。2Q以降も高水準が続くとみている。利益については7-9月の売上増による増と当初見込んでいなかったアルミ以外の原材料の変動が主な要因。1300億は当初の社内の計画と比較して上振れている。

Q4. パワトレ台数523万台は期初時点の計画と比較としてどうか。下期もこの水準が続くのか？

A4. 対前年でどの地域・得意先でも伸びているが、特に伸びているのは欧州とアジアその他。社内の計画と比較しても2Qは強い内示が来ている。

Q5. 重点領域投資他というのと、従前の固定費その他はどう違うのか？

A5. 正常稼働に伴って固定費が戻りというのは前回4月に説明した通り。固定費の戻りを最小限にとどめ、ねん出した原資を意思を持って重点領域に使うということ。対前年で60億円程度を上期に計画している。その他に北米のコンテナ不足対応費用30億円等が含まれている。

Q6. 中国の1QのCASEの生準費用・償却費増とは具体的な製品や得意先は？

A6. 主に電動化関連で、HVトランスミッションなど。具体的な顧客については差し控える。

Q7. 地域によって増益幅にバラツキがある。特に北米と欧州で一過性費用や会社統合による影響などあるのか？

A7. 米は3本柱活動により収益性は上がってきているがコンテナ不足への対応で費用が発生している。欧州については商社ビジネスであり元々付加価値は大きくない。構造改革は、AI/AWや研究法人の統合など、まず日本で効果が出ている。北米、欧州、中国についても地域統括など機能の重複があり、今後統廃合を予定しておりこれから効果が出てくる。

SQ7. AI/AWの統合は、カルチャーという点ではどうか？

SA7. 基本業務やシステムなどオペレーションの部分で大きな問題は出ていないが、一体となってチャレンジというような風土醸成はまだこれから。若い世代を中心に本音の議論を通じて互いの良いところ取りができるような人事施策をしていく。

Q8. 半導体不足について、どうとらえているか？

A8. 調達部門のがんばりによりなんとかつなげている状況で、今のところ得意先にご迷惑をおかけする事態には至っていない。業績面の影響という意味では半導体不足・コロナを含めて不透明要素として、得意先様の稼働状況の影響を受けるということであり、注視していく。

Q9. 8速ATの収益性改善の進捗はどうか。

A9. 8速ATの改善は以前にお伝えした通り欧州の6速並みまで進んでいる。今期特別大きなモデルチェンジがある訳ではなく、HVも含め通常通りの原価低減を継続的に行っている。

Q10. 当初の計画において、上下バランスは半導体不足からの挽回生産を考えると下期寄りと思うがどうか。

A10. 当初の計画は上下半分半分から若干下期寄りを想定していた。実績からみると、半導体・コロナ等の外的要因を除いて下期悪くなる要素は今のところなく、利益が出やすい状況になっているとみている。

SQ10. アルミの影響は当初の想定に対してどうか

SA10. アルミは概ね計画通り。建値変動分はいずれ吸収される。一方、樹脂や鋼材の価格が当初想定より上昇しており、注視していく。

以上